

第29回ITER理事会の結果について

文部科学省 研究開発局
研究開発戦略官（核融合・原子力国際協力担当） 付

第29回ITER理事会の議題等

日 程： 令和3年11月17日（水）・18日（木）

※新型コロナウイルスの感染拡大のため、前回に引き続きテレビ会議により開催。

議 長： ルオ 中国科学技術部核融合エネルギー計画執行センター長

出席者：

（日本）柳 文部科学審議官、鎌田 QST那珂研副所長（文部科学省参与）ほか

（欧州）ガリバ 欧州委員会エネルギー総局副総局長ほか

（米国）ビンクリー エネルギー省科学局次長ほか

（ロシア）ボロフコフ 連邦政府官房副補佐官ほか

（中国）チャン 科学技術部副部長ほか

（韓国）クオン 科学技術情報通信部巨大科学政策局長ほか

（インド）グローバー 原子力委員会委員ほか

（ITER機構）ビゴ機構長、多田副機構長ほか

議 題：

- （1）開会挨拶（議長、各極首席政府代表、機構長）
- （2）ITER計画進捗報告
- （3）ITER建設活動のマネジメント
- （4）その他



1. ITER計画の進捗

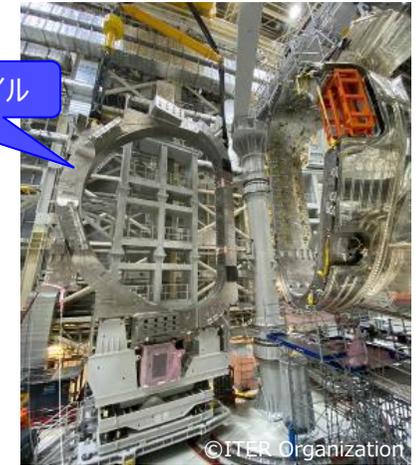
- 運転開始までの建設作業は**約75%進捗**。
- 新型コロナウイルスの影響下においても、**主要機器がITERサイトに納入されるなど、組立活動が進展**。

- 日本・欧州の超伝導トロイダル磁場(TF)コイル計8機^{※1}がサイトに到着。後続機も順調に製作中。(※1)予備機を含め総計19機製作
- サイトにおいても、TFコイルと真空容器の組立作業^{※2}が進捗するなど、**組立活動が多数進展**。(※2)右上写真

日本が納入したTFコイル



(輸送中の日本のTFコイル)



(コイルと真空容器の組立作業)

- プロジェクトに対する新型コロナウイルスの影響は継続しているものの、**2035年核融合運転開始という現行のスケジュールは維持**。
- 引き続きITER機構において**スケジュールを維持するために必要な対策を継続**
対策の例：サイトにおいて段階的に実施することとしていた作業を同時進行で実施



(トカマクピットに据付けられるPFコイル)

2. ITER運転期の基本方針

- ITERの運転期が近付きつつあり、これを日本が主導していくべく、**運転期の基本方針**を検討する**各極担当者会議**の設置を**日本から提案**。また、**日本が議長を輩出し**、今夏複数回会議を開催。
- 取りまとめた基本方針を今回理事会に報告。今後、ITER機構において基本方針の具体案を検討。

【基本方針(一部)】

- ① 運転期のITER機構のミッションは、**研究・実験、運転・保守**の2つに大別。ITER機構にて2つのミッションに対応する組織を整備。
- ② 研究・実験等を行う運転期はITER機構のみで対応することが困難。各極から機構に**人員を派遣**し、機構の活動を支援。